

考古学研究室報告

第 56 集

立田山南麓古墳(上)調査報告 1

宇留毛小碓橋際横穴群出土遺物報告

2020年度 考古学研究室の足跡

2021

熊本大学文学部考古学研究室

序 文

新型コロナウイルス感染症の話題が日常になった2020年は、これまで何気に行っていたことが当たり前ではないとさまざまに気付かされることになった。不要不急のかけ声のもと、日々の生活が大きく制限され、真っ先に切られたのはスポーツや演劇、映画などの文化活動であった。学会や研究会などの学術活動にもさまざまな制限が加えられた。小・中・高校や大学といった教育機関も例外ではなかった。おそらくこの状況は2021年度以降にも続くであろうし、ひょっとしたら昨年までの日常にすべてが完全に戻ることはないのかもしれない。

昨年3月、木下尚子先生の最終講義や退任記念パーティーが中止となり、卒業式も取りやめとなった。4月、新学期になっても入学式は行われず、前期授業の開始はゴールデンウィーク明けとなった。授業開始といっても遠隔での実施とされ、キャンパスに学生の賑やかな声が響くことはなかった。研究室に新2年生を迎えても新歓行事を行うことはできず、顔と名前が一致しない期間が長く続いた。6月、少人数の授業は対面での実施が可能とされ、ようやく実測や測量、写真撮影の技術を鍛える考古学実習を始めることができた。でも、夏の発掘調査実習をどのように行うのかは重大な懸案事項であった。合宿生活では3密を避けることができない。種々頭をめぐらせ、工夫を凝らし、多くの方からの助けを受けて、大学からほど近い立田山南麓古墳(上)を対象に、自宅からの通いにて発掘調査実習を実施できることになった。前期の授業終了は9月4日であったが、それでは調査期間を十分に確保できないことから8月下旬に調査を始め、9月中旬までの約3週間、何とか無事にすべての作業をやり遂げることができた。後期の報告書作成実習では、大学保管の未報告遺物の整理作業も合わせて実施した。収まる気配をみせないコロナ感染症に細心の注意を払いつつ、大学院修士1年生がいないなか、学部2・3年生たちは力を合わせてこの報告書を作ってくれた。本当ならお疲れ様と皆で杯を傾けたいところだが、いまはそれがかなわない。来る3月に報告書が無事に発行されること、いまはそれしか皆の労をねぎらうすべがない。学生たちと、マスクなしで談笑できる日々が戻ってくることを切に願う。

これまで長くお世話になっている阿蘇市山田地区の方々からは今年度も歓迎しますとのあたたかいお言葉を頂戴していた。そのお心遣いに心から感謝申し上げたい。次年度以降のいつか、またうかがうことができればと思う。立田山南麓古墳(上)の調査実施に際しては、熊本県や熊本市のさまざまな部署の方々から、じつに多くのご配慮とご協力を賜った。立田山を散策されているの方々からお声がけをいただいたり、卒業生が現場に足を運んで現役生たちを励ましてくれることもあった。コロナ禍でも何とか発掘調査実習を止めることなく行えたのは、そうしたさまざまな方からのお力添えがあったからである。お世話になったすべての方々へ心からの感謝の念を捧げるとともに、今後もかわらぬご指導とご支援をお願いしたいと思う。

2021年1月23日

杉井 健

例 言

1. 本書は、熊本大学文学部考古学研究室による考古学調査の報告書である。
2. 本書は2部構成をとる。第1部では立田山南麓古墳(上)発掘・測量調査の成果、第2部では宇留毛小積橋際横穴群出土遺物について報告する。
3. 第1・2部それぞれの遺跡・調査についての詳細は、以下の通りである。

【立田山南麓古墳(上)】

- (1) 立田山南麓古墳(上)は、熊本県熊本市中央区黒髪8丁目222-5番地および226番地に所在する。
- (2) 調査期間は、2020年8月24日～9月14日の計22日間である。
- (3) 調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、熊本市文化創造部文化財課・熊本県教育庁文化課・熊本市環境推進部環境共生課・熊本県農林水産部森林保全課・熊本県上益城地域振興局林務課・熊本県環境生活部自然保護課の協力を得て実施した。
- (4) 調査担当者は、杉井 健(熊本大学大学院人文社会科学部准教授)である。
- (5) 立田山南麓古墳(上)に対する考古学的調査は、今回の調査以前にも実施されている。それを含め、次のように調査次数を整理する。
 - 第1次調査 調査年：1955年3月4日～6日
調査内容：発掘調査(石室)および測量調査
調査主体：熊本市教育委員会
 - 第2次調査 調査年：2020年8月24日～9月14日
調査内容：発掘調査(墳丘)および測量調査
調査主体：熊本大学文学部考古学研究室
- (6) 本書におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は国土座標(2系)の北を示す。
- (7) 土層名の色調は『新版標準土色帖』による。
- (8) 第1図～第4図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図(伊倉・植木・肥後大津・肥後船津・熊本・健軍・宇土・御船)を複製したものである。
- (9) 図版写真のうち、図版1-1は国土地理院保有の米軍撮影空中写真(USA-M747-62, 1948年1月21日撮影)を、図版1-2は同じく米軍撮影空中写真(USA-M1492-28, 1956年10月5日撮影)を複製したものである。
- (10) トレンチの土層解釈および出土石材の鑑定において、渡辺一徳先生(熊本大学教育学部名誉教授)からご教示を賜った。また、1955年調査(第1次調査)出土遺物の所在確認においては、中原幹彦氏(熊本市立熊本博物館)からご教示を賜った。
- (11) 調査および整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関からご協力とご援助を賜った。
 - 三好栄太郎・西村沙保里(熊本市文化財課)、長谷部善一・宮崎敬士・木村龍生・後藤克博(熊本県文化課)、東園健児(熊本市環境共生課)、本村松吾・三原 文(熊本県森林保全課)、関口和夫(熊本県林務課)、竹下奈苗(熊本県自然保護課)、熊本県教育庁文化課、熊本県文化財資料室、熊本市文化創造部文化財課、立田山麓の森管理センター
- (12) 調査参加者は以下のとおりである。
 - 杉井 健(熊本大学教員)、小堀富史・廣重知樹(同社会文化科学教育部博士前期課程2年生)、藤森あきの・牟田有輝・森 悠統・山田紗佑里(同文学部4年生)、内門柚香・河野由芽・西貴史・松本青葉・松本 健・吉田健祐(同文学部3年生)、迫立夕夏・大道優奈・川元由比・佐藤史弥・松岡絹恵・松田 響(同文学部2年生)

【宇留毛小積橋際横穴群】

- (1) 宇留毛小積橋際横穴群は、熊本県熊本市中央区黒髪7丁目751～755に所在する。
- (2) 宇留毛小積橋際横穴群は、旧国道57号(現県道337号熊本菊陽線)の拡幅工事に伴い1955年に緊急調査され、その出土遺物の多くは熊本市立熊本博物館に所蔵されている。しかし、熊本大学にも本横穴群出土土器が所蔵されていることが明らかとなったため、今回報告するものである。
- (3) 宇留毛小積橋際横穴群出土遺物のうち、土器以外の金属製品や玉類については、これまでに以下の文献で報告がなされている。
 - 宮代栄一・栗林誠治・美濃口紀子 2016「熊本博物館所蔵の古墳時代鉄製品二題」『熊本博物館館報』No. 28 熊本博物館：pp. 113-128
- (4) 第16図は熊本市発行の1万分の1熊本市全図(7)を、第17図は熊本市発行の2千5百分の1国土基本図(黒髪・下南部)を複製したものである。
- (5) 図版写真のうち、図版8-1～3は人吉市教育委員会所蔵の乙益文庫にある写真資料1213「熊本市小積横穴」を複製したものであり、人吉市教育委員会から提供を受け掲載するものである。
- (6) 第17図に示した横穴の分布図は、美濃口雅朗氏(熊本市文化財課)が現地調査された際の原因の提供を受け、それをもとに作成したものである。

- (7) 出土土器の検討において、木村龍生氏（熊本県教育庁文化課）・檀 佳克氏（八女市教育委員会）・山元瞭平氏（大野城市教育委員会）からご教示を賜った。
- (8) 整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関からご協力とご援助を賜った。
美濃口雅朗（熊本市文化財課）、手柴友美子（人吉市教育委員会）、人吉市教育委員会
- (9) 整理作業者は以下の通りである。
杉井 健（熊本大学教員）、内門袖香・河野由芽・西 貴史・松本青葉・松本 健・吉田健祐（同文学部3年生）、追立夕夏・大道優奈・川元由比・佐藤史弥・松岡絹恵・松田 響（同文学部2年生）
4. 本書の編集は杉井 健の監修を受けて西 貴史・河野由芽・松本青葉が担当した。執筆分担は目次および各文末に示した。

本文目次

第1部 立田山南麓古墳(上)調査報告1	1
一 位置と環境	3
1. 地理的環境	3
2. 歴史的環境	5
(1) 熊本平野の歴史	5
(2) 金峰山・立田山周辺の古墳分布の様相	6
二 調査経過	17
1. 過去の調査(第1次調査)	17
2. 今回の調査(第2次調査)	19
三 墳丘の構造	21
1. 古墳の現状	21
2. 墳丘の構造	21
3. トレンチの設定	22
4. 調査の所見	25
(1) 第1トレンチ	25
(2) 第2トレンチ	26
(3) 第3トレンチ	26
四 遺物	28
五 総括	28
第2部 宇留毛小碓橋際横穴群出土遺物報告	31
一 位置と環境	33
二 今回の報告に至る経緯	34
三 出土遺物の整理報告	36
1. 土師器	36
2. 須恵器	37
四 総括	46

図版目次

立田山南麓古墳(上)

図版1	1	空からみた立田山南麓とその周辺(1)(丸が立田山南麓古墳(上)の位置)(1948年1月21日撮影)
	2	空からみた立田山南麓とその周辺(2)(丸が立田山南麓古墳(上)の位置)(1956年10月5日撮影)
図版2	1	立田山南麓を西から望む(右を流れるのは白川)

- 2 立田山南麓古墳(上)の墳丘と公園道路
- 3 立田山南麓古墳(上)の墳丘と石室の現状
- 図版 3 第1トレンチ全景 (西から)
- 図版 4 1 第1トレンチ北壁断面 (南西から)
- 2 第1トレンチ礫群 (西から)
- 図版 5 第2トレンチ全景 (南から)
- 図版 6 第3トレンチ全景 (南東から)
- 図版 7 1 第2トレンチ西壁断面 (南東から)
- 2 第3トレンチ東壁断面 (南から)

宇留毛小碓橋際横穴群

- 図版 8 1 宇留毛小碓橋際横穴群 1955年調査時の状況 (1)
- 2 宇留毛小碓橋際横穴群 1955年調査時の状況 (2)
- 3 宇留毛小碓橋際横穴群 1955年調査時の状況 (3)
- 図版 9 1 宇留毛小碓橋際横穴群の現状 (1)
- 2 宇留毛小碓橋際横穴群の現状 (2)
- 図版 10 宇留毛小碓橋際横穴群出土土師器 (1)
- 図版 11 宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器 (1)
- 図版 12 宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器 (2)
- 図版 13 宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器 (3)
- 図版 14 宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器 (4)
- 図版 15 宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器 (5)
- 図版 16 宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器 (6)
- 図版 17 1 宇留毛小碓橋際横穴群出土土師器 (2)
- 2 宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器 (7)
- 3 宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器のへら記号 (左から「キ」の字、「\$」記号、乱雑な傷、「丹」の字、3本線)

挿 図 目 次

- 第 1 図 金峰山・立田山周辺部の地形 …………… (松岡作成) …………… 3
- 第 2 図 金峰山・立田山における古墳分布図 (1)…………… (内門・西作成) …………… 7
- 第 3 図 金峰山・立田山における古墳分布図 (2)…………… (内門・西作成) …………… 8
- 第 4 図 金峰山・立田山における古墳分布図 (3)…………… (内門・西作成) …………… 9
- 第 5 図 立田山南麓古墳(上)の位置 …………… (西作成) …………… 17
- 第 6 図 1955年調査の墳丘測量図および横穴式石室実測図 … (美濃口編 1994・乙益 1971 を改変) … 18
- 第 7 図 第2・第3トレンチ調査風景 …………… (杉井撮影) …………… 19
- 第 8 図 オンライン現地説明会風景 …………… (松岡撮影) …………… 19
- 第 9 図 トレンチ配置図 …………… (西作成) …………… 22

第10図	立田山南麓古墳(上)墳丘測量図	(西製図)	23～24
第11図	第1トレンチ断面図・平面図	(松本青製図)	25
第12図	第2トレンチ断面図・平面図	(河野製図)	27
第13図	第3トレンチ断面図・平面図	(河野製図)	27
第14図	古銭表面の拓影・写真	(佐藤作成)	28
第15図	立田山南麓古墳(上)墳丘形態復元図	(西作成)	29
第16図	宇留毛小碓橋際横穴群の位置	(西作成)	33
第17図	宇留毛小碓橋際横穴群横穴分布図	(美濃口氏提供原図より杉井作成)	35
第18図	宇留毛小碓橋際横穴群出土土師器実測図	(川元製図)	37
第19図	宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器実測図(1)	(松田製図)	39
第20図	宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器実測図(2)	(佐藤製図)	40
第21図	宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器実測図(3)	(松岡製図)	41
第22図	宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器実測図(4)	(追立製図)	42

表 目 次

第1表	金峰山・立田山における古墳一覧表(1)	(内門・追立・大道・川元・佐藤・西・松岡・松田・松本青・松本健・吉田作成)	10
第2表	金峰山・立田山における古墳一覧表(2)	(内門・追立・大道・川元・佐藤・西・松岡・松田・松本青・松本健・吉田作成)	11
第3表	金峰山・立田山における古墳一覧表(3)	(内門・追立・大道・川元・佐藤・西・松岡・松田・松本青・松本健・吉田作成)	12
第4表	金峰山・立田山における古墳一覧表(4)	(内門・追立・大道・川元・佐藤・西・松岡・松田・松本青・松本健・吉田作成)	13
第5表	金峰山・立田山における古墳一覧表(5)	(内門・追立・大道・川元・佐藤・西・松岡・松田・松本青・松本健・吉田作成)	14
第6表	金峰山・立田山における古墳一覧表(6)	(内門・追立・大道・川元・佐藤・西・松岡・松田・松本青・松本健・吉田作成)	15
第7表	立田山南麓古墳(上)基準点の現場座標	(杉井作成)	20
第8表	立田山南麓古墳(上)基準点の国土座標	(杉井作成)	20
第9表	宇留毛小碓橋際横穴群出土土師器一覧表	(吉田作成)	36
第10表	宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器一覧表(1)	(河野作成)	44
第11表	宇留毛小碓橋際横穴群出土須恵器一覧表(2)	(河野作成)	45